

## 平成25年度第2回生涯学習審議会議事録

日時：平成26年2月18日（火）

午前10時15分～12時

会場：県庁附属棟 302号室

審議事項「成年期における今後の生涯学習施策の在り方について」

成年期における継続性・実効性のある生涯学習施策はどうあるべきか。

県内高等教育機関と連携し、県民の「学びの場」の充実をどう図ることができるか。

**議長** 県内高等教育機関と連携し、県民の「学びの場」の充実を、どう図ることができるかについて、事務局から説明のあった3つの視点から御意見、お考えをいただきたい。

まず、**視点の1「高等教育機関との連携強化」**について、大学の現状等も含めてご意見をいただきたい。

**委員** 本大学では、市民大学院として市民対象講座を実施している。100名以上の方々が参加されている。大学の教員が地域貢献として何回講座に関わったかも大学では把握している。文科省の事業として、産学官連携、知の循環に取り組んでいる。

**委員** 本学では、産後の回復、子育てに繋がるスポーツ講座等、8つの公開講座を実施した。広く県民を対象とした講座を実施したいが、参加者の多くは高齢者であるのが実態である。

**委員** 生涯学習審議会では枠組みを提示することでよいか。社会教育委員会議との関係性はどうか。

**委員** 地域の偉人等、地域の特性を生かした講座が多くなる。地域のニーズの把握等を県が行い、情報提供をしていくことが必要である。

**委員** 8月に開催された「県民総ぐるみ教育フェスティバル」において、教育支援を行う企業と県民を結ぶブースが設置されており、多くの情報を得ることができた。県内高等教育機関のブースも設置すると、生涯学習に関する多くの情報を発信することができる。

**委員** 市町村が積極的に高等教育機関との連携を図る必要がある。また、図書館も生涯学習の拠点であり、県立図書館と市町村立図書館との連携も進めたい。

**委員** 少子化や若者の県外流出への対応として、各大学等の特色を積極的に広報する必要がある。また、親世代を対象とした講座を実施することにより、大学選択を含めた理解にも繋がる。

**委員** 大学は公開講座を行うが、参加者の地域や年齢層等が限定されており、広がりが無い。県内の空きビル等を活用し、県民が広域的に参加できる工夫も考えられる。

**委員** 大学や県に対して県民は敷居が高いと感じているので、参加者が少ない。NPO等を含めて県民がプラットフォームに繋がり、参加しやすい講座にする工夫が必要である。若い感覚のサークル等を活用した講座の方が広がりが期待できる。

**委員** 趣味的な講座への参加者は多いが、人権教育等、講座の内容によっては参加者が敬遠する傾向がある。講座実施主体側が出かけていく出前講座の実施が必要である。

**委員** 現在作成している「親学びプログラム」は、生涯学習の推進に繋がる。また、トレーナー制度でネットワークづくりも期待できる。また、アシスト企業に本プログラムの理解を求めると広がりが出てくるのではないかな。

口コミによる広報の効果も大きい。また、講座や事業に参加した方々へのダイレクトメールも効果的である。

**委員** 高等教育機関と県の連絡会に市町村も参加した方が連携強化に繋がる。30歳から40歳代の講座への参加者が少ないので、企業の職員研修とリンクして実施するとよいのではないかな。

**委員** 婦人会等、地域で様々な活動を行っている社会教育関係団体に大学や学生が目を向けると多くの情報を得ることができる。また、講座の実施方法や進め方も、県民が楽しみながら学ぶ工夫が必要である。

**委員** 大学は、地域から情報を提供してもらい研究テーマとして生かすことも必要である。

---

**議長** 次に、視点の2「生涯学習情報の提供及び学習相談体制の整備」についてご意見をいただきたい。

**委員** 以前、大学生が高校を訪れ、大学の特色やよさを話す機会があった。在籍している大学をPRすることも大切である。

**委員** 日南市には振徳塾があり、若者が中心となり講師選定から運営まで主体的に活動しており、現在7期生である。特に、30歳代の若者の参加を促す工夫が必要である。

**委員** 講座や研修会に参加した話題を家庭内で話すことも、夫婦で情報を共有することになる。

**委員** 各大学では、例えば園芸、地震対策、管理栄養など、優れた部門を備えている。各大学等の得意な専門性を広報する意味で一堂に会した講座の実施等の工夫も必要である。  
興味の持てる講座を検索すると大学の講座に繋がるようなシステム化が必要である。

---

**議長** 次に、視点の3「継続的・体系的な学習提供・学習成果を生かす仕組みづくり」についてご意見をいただきたい。

**委員** 県民の興味を引くような講座のネーミングも必要である。

**委員** 日々、生涯学習は展開されている。集める生涯学習ではなく、自らが参加する生涯学習が大事であり、その体制作りが必要である。市町村の特性を生かし、地域づくりに繋がる生涯学習の位置づけが重要である。

**委員** 大学だけでなく、県にも出前講座がある。専門性に富み質も高く資料もすばらしいので活用する必要がある。

**委員** 質の高い講座は大学以外にもあり、アシスト企業にも高度な知識を持つ方がいる。それらを引き出す仕組みづくりが大事である。

**委員** 市町村の開催している講座が様々な現代的課題に対応するような啓発が必要である。

**委員** 教育委員会のみならず首長部局の取組も生涯学習情報として提供する必要がある。